

# 本部委員会の審議内容

公益社団法人 鉄道貨物協会

## 第3回 利用促進委員会(H29.7.19)

平成29年度第3回利用促進委員会を開催し、アンケートおよびヒアリング調査の中間報告について審議を行った。

### 1. アンケート調査の実施状況について(中間報告)

【年間テーマ】「幹線輸送における共同化等効率化の実態調査と鉄道コンテナ輸送の利用促進に向けた課題・施策の検討」

#### A. 調査の目的

幹線輸送において実施している共同化の実態(どのような輸送モードにおいて、どのような形態の共同化を実施しているか、等)に関する事例を収集するとともに、共同化の推進に向けてのニーズや課題などについて把握するため、アンケート調査を実施することとする。

#### B. 調査の方法

6月中旬にアンケート調査票を調査対象者に郵便にて発送し、後日郵便、FAX、電子メールにて回収した(締切日は6月30日(金)とした)。

#### C. 調査の対象と回収率

鉄道貨物協会の会員である荷主企業(物流子会社を含む)を対象とした。合計で370件の企業・事業所を対象に調査を実施し、143件の回答を得た(回収率:38.6%)。

#### D. 調査項目

(1) 幹線輸送における物流共同化の実施状況  
(2) 幹線輸送における物流共同化の実施概要(幹線における共同輸送、他社との共同利用による輸送モードの往復利用、リレー輸送、その他)

(3) 物流共同化のメリット  
(4) 物流共同化を実施する上での課題  
(5) 鉄道コンテナを利用した物流共同化を実施する上の課題  
(6) 鉄道コンテナ輸送に関する要望等

#### E. 調査結果の概要(一部を抜粋)

(1) 幹線輸送における物流共同化の実施状況

回答のあった荷主企業における物流共同化の実施状況は下記の表1のとおりである。

表1 幹線輸送における物流共同化の実施状況

幹線輸送における物流共同化の実施状況	件数、割合
ア. 現在実施しており、5年前と比較して対象貨物の物量は増加している	13件(9.1%)
イ. 現在実施しており、5年前と比較して対象貨物の物量はほぼ同じである	9件(6.3%)
ウ. 現在実施しており、5年前と比較して対象貨物の物量は減少している	9件(6.3%)
エ. 以前は実施していたが、現在は止めてしまった。ただし、今後改めて検討する可能性がある	1件(0.7%)
オ. 以前は実施していたが、現在は止めてしまった。当面検討する可能性もない	3件(2.1%)
カ. 現在は実施していないが、検討している(あるいは検討を予定している)	10件(7.0%)
キ. 現在は実施していないが、条件が整えば検討する可能性がある	38件(26.6%)
ク. 現在実施しておらず、当面検討する可能性もない	57件(39.9%)
ケ. その他	3件(2.1%)
合計	143件(100.0%)

#### (2) 物流共同化を実施する上での課題

回答のあった荷主企業における物流共同化を実施する上での課題は下記の表2のとおりである。なお、「その他」(7件:4.9%)として、「食品を扱うため、製品特性(配送温度・取扱い・臭気等)の合致が必要」「製品の取扱い、衛生面、臭いが移る等」「相手先に承知してもらえないこと」「自社データを他社に開示するためのインフラ整備と共同化可能な回数か月に何回あるか」「エリアが限定される」「現状、物流共同化に取り組んでいないので、課題が明確に分からない」「自社トラックでの運送が主」という回答がみられた。

表2 物流共同化を実施する上での課題

物流共同化を実施する上での課題	件数、割合
ア. 共同化する相手先企業の確保	94件(65.7%)
イ. 共同化のための施設が必要	25件(17.5%)
ウ. 相手先との発着時間帯がマッチすること	88件(61.5%)
エ. 自社情報の他社への漏えいの防止	25件(17.5%)
オ. 物流事業者の選定	24件(16.8%)
カ. 事故が発生した際の責任の明確化	57件(39.9%)
キ. 物流コストの按分方法	28件(19.6%)
ク. その他	7件(4.9%)
無回答	14件(9.8%)
合計	143件(100.0%)

注)複数回答

### 2. アンケート調査の実施状況について(中間報告)

【サブテーマ】「食品輸送における定温(温度管理を必要とする)輸送の実態・課題および今後の意向等に関する調査研究」

#### A. 調査の目的

定温(=温度管理を必要とする)コンテナ輸送のニーズがあると推測される農産品出荷団体、加工食品メーカーなどにおける定温コンテナ

の利用実態ならびにニーズ(潜在需要)を把握するため、アンケート調査を実施した。

#### B. 調査の方法

6月下旬にアンケート調査票を調査対象者に郵便にて発送し、後日郵便、FAX、電子メールにて回収した(締切日は7月7日(金)とした)。

#### C. 調査の対象

(1) 農産品出荷団体  
(2) 加工食品メーカー  
合計で118件の事業者を対象に調査を実施し、29件の回答を得た(回収率:24.6%)。

#### D. 調査項目

(1) 長距離区間における定温輸送の利用状況(輸送区間、輸送モード、品目、管理温度帯、平均的な月間の発送量)  
(2) 鉄道コンテナによる定温輸送にかかる利用意向および理由  
(3) 鉄道コンテナによる定温輸送の利用を増やしたい(または利用したい)品目、期間、頻度  
(4) 鉄道コンテナによる定温輸送の利用を増やしたい(または利用したい)輸送区間、品目、管理温度帯、輸送重量、輸送容量  
(5) 鉄道コンテナによる定温輸送を利用する(または利用を増加するための条件、ニーズ等)  
(6) 現在鉄道コンテナによる定温輸送を利用していない理由  
(7) 鉄道の定温コンテナに対する希望等  
(8) 鉄道コンテナ輸送に関する要望等

#### E. 調査結果の概要(一部を抜粋)

(1) 鉄道コンテナによる定温輸送にかかる利用意向および理由

表3 鉄道コンテナによる定温輸送にかかる利用意向および理由

利用意向	件数、割合	理由
ア. 現在利用しており、今後利用を増やしたい	5件(17.2%)	・今年度、5~6月にかけて試験的に玉ねぎを出荷した(一部、鉄道URコンテナ使用)。初年度は温度管理の可能なトラック中心であったが、次年度以降は、URコンテナの安全性が確認できた地区については積極的に利用していきたい。 ・現在の主要荷主における輸送ルートが片道運行になっているため、到着地点付近から帰り荷を積載し、効率よく運行したい。 ・とくに長距離幹線輸送においてトラックドライバー不足によりドライバーの確保が困難となっている。 ・エネルギー使用量の削減にも注力していかなければならない。 ・CO <sub>2</sub> 削減、トラックドライバー不足対策として利用を増やしたい。 ・大型鉄道コンテナ輸送へのモーダルシフトを推進する。
イ. 現在利用しており、今後も利用量は大きく変化しない	8件(27.6%)	・新たに利用可能な区間が無い。 ・今後利用を増やしたいと考えてはいるが、冷凍コンテナを自社で保有しておらず、簡単には増やせない。 ・既に保有している2基の鉄道コンテナについて、ほぼ毎日稼働しているため。
ウ. 現在利用しているが、今後は利用を減らしたい	0件(0.0%)	
エ. 以前利用したことがあるが、現在は利用していない	1件(3.4%)	・利用駅の利用運送事業者側でエンジン付き保冷コンテナの供給が困難となった。併せて、チルド品輸送量変動し、大型トラックが物量に合致して輸送価格も抑制できた。鉄道コンテナでは、輸送品質の確保の点で懸念があった。
オ. 現在は利用していないが、今後利用してみたい	5件(17.2%)	・利用コストについて知りたい。 ・ドライバー不足への対応のため。 ・安定的に冷蔵・冷凍コンテナを確保し、巡回させて運用できる状況にないため(2016年3月末の冷蔵コンテナ製造メーカーの撤退の影響があるため)。 ・700km以上の幹線輸送で定温輸送を検討している。トラックでは距離が長いので、鉄道コンテナの利用を検討している。
カ. 利用してみたいが、様々な制約により利用できない	3件(10.3%)	・小口輸送のため、コンテナで輸送するほど数量がまとまらない。 ・トラック輸送に比べて、着地への納品時間が遅く、不確実であるとの認識がある。 ・生産場所が道東地区に複数あり、積合せで輸送している。
キ. 現在利用しておらず、今後利用するつもりはない	6件(20.7%)	・荷主・荷物が対象に無い。 ・定温輸送を必要とする貨物が無い。 ・500km以上の長距離区間の定温輸送が無い。 ・温度管理が必要な商品も一部あるが、物量的に少ないので鉄道コンテナ輸送を使用するには至っていない。 ・温度帯管理が可能な輸送コンテナについて必要時にフレキシブルな対応が望めない。
ク. 分からない	0件(0.0%)	
ケ. その他	1件(3.4%)	
合計	29件(100.0%)	

### 3. ヒアリング調査の実施状況について(中間報告)

アンケート調査の集計を完成させたくうえで、アンケート調査結果の補正として、荷主企業に対してヒアリング調査を実施する。